

令和5年度第1回 北九州市立美術館協議会議事録（要旨）

名称 令和5年度第1回北九州市立美術館協議会

報告

報告1 令和4年度事業実施結果について

報告2 美術館友の会の活動状況について

議事

議題1 北九州市立美術館運営評価について

開催日時

令和5年7月27日（木） 14時～16時

開催場所

北九州市立美術館本館 アネックスレクチャールーム

出席者

（会長）菅 章	大分市美術館館長
（副会長）森山 秀子	久留米市美術館副館長
（委員）林 光孝	北九州市立湯川中学校校長
新谷 幸子	福岡県立八幡中央高等学校
原田 美紀	原田・川原法律事務所弁護士
三上 和子	北九州市女性団体連絡会議
大久保 大助	NPO法人KID's work 代表理事
桑園 英俊	社会福祉法人桑の実会理事長
速水 豊	三重県立美術館館長
立石 洋子	北九州美術家連盟
駄場 繁	読売新聞西部本社事業推進室事業部長
岩渕 邦夫	朝日新聞社西部本社統括センター長
中島 徹	市民委員

（事務局）後小路 雅弘	北九州市立美術館	館長
田上 裕之	北九州市立美術館	副館長
菅 ゆみ	北九州市立美術館	普及課長
那須 孝幸	北九州市立美術館	学芸課長
阪上 壮一郎	北九州市立美術館	普及係長
大庭 徳治	北九州市立美術館	分館長
重松 知美	北九州市立美術館	学芸課係長
香月 敬二	北九州市立美術館	普及課
小松 健一郎	北九州市立美術館	学芸課

議事録（要旨）

事務局	議事の説明、傍聴者の確認（0名）、館長挨拶、会長挨拶
報告 1 「令和 4 年度事業実施結果について」 報告 2 「美術館友の会の活動状況について」	
事務局	報告 1・2 についての説明
会長	ただいまの説明についてのご意見・ご質問等ありましたら、お願いします。
委員	令和 2 年度から 3 年度にかけては、かなりコロナの影響が回復して、展覧会開催日数や開催回数、入館者数は増えているが、コロナ前と比較して、3 年度の入場者数はどの程度減ったままなのか。
事務局	平成 30 年度は約 20 万人弱だった。コロナの一番活発だった 2 年度については、9 万 3000 人で約半分という状況である。
委員	それでは、3 年度は大体 6 割ぐらいという感じですね。今年度は今のところ、どのような感じか。
事務局	今年、分館で開催した吉村芳生展が 1 日当たり 417 人で、非常に好調だった。また、キッズ&ユース・デーで、学生の入場料無料やベビーカー連れを歓迎、コンサートの開催などを実施し、延べで 1 日 1200 人という大幅な来館者が来ている。 また、夏季の公共施設の家計支援事業で、コロナ禍の経済回復を目指す市の取り組みとして、コレクション展の入場料を無料にして、6 月までの 4 倍にあたる、1 日あたり約 200 人の入場者を記録している。前年に比べると、非常に好調という状況である。
委員	コロナ対策として、入館時に消毒、検温というのはあるが、名前の記載を今は、やっていないようだが、いつぐらいからその形に切り換えたのか教えてほしい。 来館者から、どうして記名がないのかという質問はないか。
事務局	3 年度以降にコロナが少し落ち着いたことから、記名は任意としている。今のところ、特に問題となったケースはない。
委員	友の会の年度会員制度、半年会員制度について、具体的に聞きたい。
事務局	これまでは、入会月から 1 年間としていたため、会員期間が全員違っていたが、これを 4 月から 3 月までの 1 年間に固定した。また、10 月～3 月の半年会員制度を新設して年会費を半額にするなど、入りやすい形を提供することにした。
委員	令和 2 年度末から 3 年度末に個人会員が 70 人減少となっているが、新しい制度によって、また入会者が戻ってくることも考えられるか。
事務局	今年度に入り、増えてきている実績はある。本館をリニューアルした平成 29 年度の 570 名ぐらいまでに回復させることを目標にしている。
委員	バーコード決済導入のメリットや今後の拡充の予定を教えてください。
事務局	高額のものを購入していただきやすいため。物販等の売り上げ増に繋がっていると思う。今後の拡充についても検討していきたい。
委員	友の会会員の男女比・年齢構成は。会員で美術館ボランティアの人はいるか。

事務局	今、ここにデータがないので、大まかな回答になるが、ご高齢の方が多いというのが現状である。ボランティアも相当数兼ねていただいていると思われる。
委員	友の会もボランティアも兼ねているコアな方はどういう人たちがいるのか、美術館の活動を繋いでくれる人の広がりをどうしたら作れるか、どういう層にアプローチをしていったらいいか、考える手立てになると思う。
議題 1 「北九州市立美術館運営評価について」	
事務局	議題 1 についての説明
会長	ただいまの説明についてのご意見・ご質問等ありましたら、お願いします。
委員	「作品」について、日本の美術館では、所蔵品や美術資料のアーカイブまで、データベースを将来的に構築していく必要があるが、今の段階できちんとなされているところは、ほとんどない状態である。専門の人達を中心に、データベース作りをしているというところが出てきており、ジャパンリサーチという大きなシステムに参加している美術館もある。人と予算が必要になって、社会的にそのデータベース構築作業が必要であるということは、一昔前と違って、緊急な重要性を帯びてきている。いろいろな形で補助金がもらえる制度ができおり、外部資金を他の美術館の事例を参考にしながら、併せてやっていかないと、将来的に完全に立ち遅れていく。世界中を見ても、日本がものすごく遅れている。韓国や台湾、インドの進行はすごい。それは一般社会も含めてであるが、特にこの文化関係は日本の立ち遅れが非常に目立っている。ぜひ、この美術館が少しでも追いかけていくという体制を作った方がいいと思う。一方で、データ情報は、日に日に溜まっていくであろうから、早く手を打たないと、どんどん作業が大変になっていく。他の美術館がどんなことやっているか、連携を取って調査しながら、いろいろ考えられるのではないかなと思う。
委員	今の意見に関連して、現状等、データベース化をするのに、今のペースでやっていくと、いつ頃終わりそうという目途といったものはあるか。
事務局	前回の協議会でも、目標を具体的にというご指摘をいただいているが、現在の時点では全体量が見えないことには、どれぐらい、何%といった形ではまだ分析しきれていない。図書データベースも、例えば今年度で一旦打ち切って、過去のをひたすら入力していくのであれば、概ねの量はわかるが、毎月毎月、図書は増えていく一方で、すすめながら、過去に遡っているため、全体像が見えづらい現状である。今後の5ヵ年計画では、そういった目標設定をしていきたいと考えており、現在模索中である。 作品のデータベースについては、作品名や制作年などの基本的なことは入力済みである。しかし、作品のコンディションや、来歴、貸出歴、出品歴、詳細なデータの入力、充分にはできていない状況である。
委員	人員と予算がかかることだと思う。頑張ってください。
委員	例えば、自分が在籍していた美術館では毎年毎年多くの資料が入ってくるが、ほとんど全部を検索できるような状態になっている。ただし、作品の方はほとんど手がついてない。その後に着任したところでは、当初のデータベース

	を構築するために、外部発注をかけて、かなりのお金を使って入力作業を一挙にやった。 同時に、作品の資料についても進めているが、これはメーカーの著作権の問題などあり容易ではないが、SNSを使って広報するときに、作品の画像使用については、著作権法が改正されて、少なくともその美術館が作品解説として使用する場合に著作権料を支払う必要がなくなっている。画像は保管できるので、将来的に、所蔵品のデータベースを画像付で作る場合には、それが使える。ぜひ、今後いろいろ研究して、できる範囲で手をつけていくことが必要であると思っている。
委員	今回の評価を見て、美術館の裏側が面白そうだなと思っている。個人的に、修復作業を見てみたいと思う。美術の楽しみ方は、作品についてわからなくても、その作業工程などが特別だったり、リトグラフとは一体どんな工法なのかとか、作品の背景を知る、みたいなことで興味が広がることもあると思う。 同じように、美術館自体も、建物はとても素敵で作品もいいが、そうすると今まで通り、その作品の善し悪しや、建物のロケーションなど、これまでのものでしか勝負できない。ボランティアの活動がこんなに面白いことをやっているなど、何かその美術館の裏側が見えれば「魅力の差」になる。裏側を知らない人たちは、未知の世界だから面白いと思う。協力したい、応援したいと思う資源になるかもしれないので、裏側を出すということもあったらいいと思った。 また、キッズ&ユース・デーで石井勢津子さんの展覧会を見に行った。どんな展覧会か想像できなかったが、チラシで見た以上に、自分も子供も感激した。SNSで北九州美術館はあまりシェアされてないようだったので、もったいない。ボランティアの人が10人ぐらいで拡散するなど、良さをもっと広げていくと、多くの人が来るのではないかなと思う。SNSボランティアを養成して、新聞社に書き方を習うなどすれば、ボランティアも頑張れるのではないかなと思った。
委員	裏側や絵画の修復、来館者にはわからない部分というのはたくさんあり、それを知りたいと思っている人もたくさんいると思う。将来的に美術館もそんなことを紹介できるような、いろんな企画を考えてくれると面白いと思う。 修復の場合は、依頼先によって全くやり方が違うし、それぞれ時間がかかるから、修復全体の作業工程とかを写真にして見せるという企画は、他の美術館で今までいろんな形でやられている。そのようなことも参考にしながら、ここならではの企画が将来的できたら面白いと思う。
委員	ツイッター・Instagram導入について、自分のところでも、SNS発信が弱いとずっと言われ続けて、ようやくツイッターを始めたところである。例えば、ツイッター、Instagramなどは、アップするタイミングが非常に重要だと思うが、そこで職員が勝手にアップしたら、間違った情報や、或いは炎上するようなことがあると困るので、おそらく決裁やチェック機能というのは必要かなと思うが、ツイッターの場合、リツイートや、質問に対しての反応など、どのような対応をしているか。

事務局	ツイッターについては、担当者が作成後、必ず普及課長まで決裁をとって、発信することになっている。リツイートについては、公的なものの発信については リツイートするが、個人の方の発信にはリツイートしないというルールを、内規で決めている。
会長	ほかに意見・質問はないか。なければ、事務局から今までのいくつかの意見に対して考えや説明はないか。
事務局	先ほどいただいた「裏側」の話について、展覧会でという形ではないが、いろんな講演の機会に、「展覧会の裏側」といった題目で、実際にお客様が目にする以前にはどのように運んでいるのか、或いは修復の様子画像等、できる範囲でお見せしている。ただ、ツイッターなどで紹介する場合は、著作権、肖像権などの権利が発生してくるので、やり方はこれから研究したい。 また、技法の説明、紹介については、以前に版画の過程の紹介などの試みをしてきたので、今後も続けていきたい。石井勢津子ホログラフィ展については、本当に実物をご覧になると、こういうものかとおわかりいただけるが、私どももPRに大変苦労している。3次元のため、写真でも動画でも伝わらない。これを「伝わらない」ということ自体を魅力としてPRするしかない。まさに口コミで、広げていただきたい、そういった企画だと思っている。
館長	いろいろとご意見ありがとうございます。ホログラムについては、見ないと良さがわからないと言われるのだが、実は美術作品というのは、ほぼ全てそう言える。印刷された写真で見て、わかる部分と、やはり本物の良さというものが、そういう意味では、広報で全てわかってしまわない良さというのがあると思う。 SNS等を通じた広報については、特にコロナ禍で、今後ますます重要になっていくということは、理解しているつもりであるが、IT弱者と言われるような方は必ずいて、そのような文明の利器から阻害される層に向けた方法を、美術館活動というものは、やはり大事だと思う。IT弱者を見捨てない、という部分も必要だろうと、委員のご意見にもあった。 また、ミュージアムグッズについて、美術館として、ミュージアムグッズを開発して、売っていくのはなかなか大変なことである。やはり、恒常的に企画して作って販売する組織的なものが、美術館にとっては必要ではないかと思っている。今すぐにはできないが、将来的に考えていかなければならないことだと思っている。
事務局	SNSについて、昨年のフィンランドデザイン展であれば、ツイッターのフォロワーが268、インスタフォロワーが795、わかやまけん展のツイッターのフォロワーが3080、インスタが741 というような数字になっている。SNSをやっている40代以下の方々にとってはやっぱりSNSはすごく効果的な面があったという感じを持っている。その一方で、SNSのフォロワーが伸びると、入館者が伸びるということではなくて、今年の吉村芳生展のツイッターでは、フォロワーはすごく少なかったが、来館者は、わかやまけん展を超える人数だった。若い方にはSNSが有効ということはわかっているが、年配の方、口コミで広まっていく層の方々について、これからどのようにコロナ前の状況

	を取り戻していくかということが課題になってくると感じている。
委員	私も、やはりIT弱者も大事にしないといけないと思っている。 ミュージアムグッズの企画発信も大変重要だと考えている。 また、バーコード決済など、そのいうものが、入館、来館者に繋がるということは、比例はしないと思う。だから、世相にあまり流されることなく、ブレずに大切にしていきたい。
事務局	評価項目3「教育普及」の運営改善の提言のところで、館内授業を実施しているが、こういう内容も発信することで、美術館の活用の仕方を知ることができ、美術館を授業で使ってみようと思う学校が市内外に増えるのではないかなと思う。鑑賞教育普及は、小学校でも中学校でも、今取り組んでいるところである。学校がどれだけ鑑賞教育に興味を持って、ノウハウを勉強しようという気持ちになって取り組んでくれるか、というところだと考えている。 以前、学校と美術館が連携して、鑑賞授業の冊子を作ったり、モデル授業として生徒を呼んで授業をするなどを行っていた。美術館に来て現物の前で対話授業を進めていくということが望ましいが、時間の問題で来れないということもある。例えば、美術館が所蔵する作品で、こんな作品がありますよといった、アートカードなどがあれば、多分、興味のある若い教師などは借りると思う。来館者の数には反映されないが、まずは、美術科の教員や図画工作の教員たちにこんな作品がありますということをアピールして、広げていけたらいいなと考えている。
委員	子供はSNSを持ってないので、社会見学に来る前にミュージアム・ツアーパンフレットをもらうが、まずこれで、子供たちは相当ウキウキする。今まで見たことのないようなパンフレット、何か特別なところに行くということで、もうワクワクする。本当にこのパンフレットは、よくできていると思うので、続けて欲しい。 ミュージアムショップについては、小倉織などがあり、楽しい。オリジナルグッズを作るのは大変だと思うが、いろんな種類のものが置いてあると、大人も来てわくわくすると思う。
委員	石井勢津子展に行ったが、とても興味深かった。 市民センターでは、美術館の活用の仕方がわからない。例えば、こういうような活用の仕方はいかがですかという、美術館サイドからヒントをくれると、講座の1コマとして活用できると思う。博物館が当初できた時には、広告担当者が各市民センターを回られ、活用の方法をPRされた。美術館も、まだまだ生涯学習講座として増える可能性はあると思っている。 ミュージアムショップでは、小倉織のほかに、もう一つ何か、北九州の製品を取り入れてほしい。
会長	いろいろ意見いただき、美術館活動にとって役立つ大切な意見があったと思う。美術館ぜひ今後、その意見を生かしながら進めていきたい。 補足的な説明として、評価項目の4「広報」の自己評価の妥当性について、評価基準の設定が定量的でないために、わかりにくいというご意見があるが、この評価のあり方を長い間協議しながら、今の形ができている。どうしても、

	数字で評価すると、数字を追うという形になりやすいので、それを避けるために、定量評価に傾くことはできるだけしないように、定性的な部分を大切にしようとした経緯がある。しかし、このような意見が出てくる以上、定量的に変更するのではなく、必要な部分だけ参考になるような数字を入れていくという工夫も必要と思った。 事務局から説明のあった評価結果について、承認してよろしいか。 (異議なし) 北九州市立美術館運営評価については、協議会として事務局案を承認する。
館長	本日は貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。 今、社会が、美術館に求めるものというのは非常に多様化し、様々な要請がある中で、ニーズを見極めながら、美術館も変わっていかなければならない。一方で、変わってはいけない部分もあると思う。その両方をしっかり見つめながら、今後の活動を展開していきたい。